



センター試験 297 名受験

1月19日(土)、20日(日)の2日間実施された大学入試センター試験を、本校3年生の297名が鹿児島大学教育学部で受験しました。前日の下見は徒歩で鹿児島大学へ。体調不良等の大きなトラブルもなく、全員が無事に試験を終えることができました。

1月21日(月)は、各教室で自己採点。ここで計算された点数をもとに出願先を決定するので、自己採点は非常に重要です。1・2年生は、自己採点まで含めた3日間がセンター試験であると理解してください。

1月25日(金)には、第3回進路検討会が行われました。検討会では、自己採点と各予備校の判定、さらに生徒の今後の伸びに対する教科担任の見解をもとに、出願先と合格の可能性について3年生全員の検討がなされました。

1月26日(土)、27日(日)は、出願先決定のための三者面談が行われました。進路検討会での議論をもとに、生徒・保護者・担任が知恵を出し合い、最後は生徒本人が覚悟と決意を持って出願先を確定させました。

54期生にとって、人生の中でこれほど大きな選択を迫られることはなかったと思います。だからこそ、ここで自分が下した最終決断を信じ、二次試験に向けて全力で走り抜けてほしいと思います。

国公立大学入試二次対策開始

1月22日(火)から、二次対策の特別授業が始まりました。二次試験で必要な教科の授業のみを受けますが、勉強の負担が減るわけではありません。二次試験の問題はセンター試験以上に深い理解と思考力が問われるため、思うようにできないストレスを感じている人も多いはずですが、ただ、二次対策の授業や演習に必死に取り組む中で、必ずそれまで積み上げてきた経験が頭の中で結びついてくる瞬間がきます。これまでの経験をもとに、初めて見る問題に対しても正しい方向性を見つけれられるようになるのです。進路指導室便り10月号で紹介した、「ゴールデンタイム」の進化版が訪れるのです。その手応えをつかむ瞬間が必ずくることを信じて、目の前の1つ1つの問題に真摯に向き合いきましょう。多くの先輩たちが、この二次対策の中で学力が伸びたと実感しています。センター試験はあくまでも通過点。本当に勉強が面白くなるのはここからです。3年生の健闘を祈ります。

あと1年、あと2年

3年生がセンター試験を終えて口にするのは、「この1年は本当に早かった」ということです。特に、センター試験まであと100日から本番までは、「あつという間」と言っています。1・2年生にも、その時期は必ずやってきます。今からしっかり準備をしておくことが大切です。

先日、1・2年生ともに進研模試を受けました。その復習の中で、自分が次の模試までの半年間で伸ばすべき科目や分野を確認しましょう。模擬試験は、進路実現のための大切なツールですが、その活用度には個人差が大きいのが現状です。進路指導室便り9月号で紹介した復習の仕方を実践し、3年生になって後悔することのないように、1日1日を大事にしてほしいと思います。

集中の仕方

「コンラボ」というサイトに、以下のようなことが紹介されていました。(参考: <https://conlabo.jp/>)

1-1. 取り組むことを「ひとつ」に絞る

文章を書くなら、「書く」ことだけを考える。途中で調べ物をしたり、推敲をしてみたりするのも控える。

1-2. 集中力を高めるには、関心事を頭の外に出す

脳は意識しないことさえ勝手に考えてしまうという性質がある。それらを頭から消すためには、紙などに書き出すことが有効。これは、ブレイン・ダンプと呼ばれる、とても効果の高い方法。「気になること」を書き出すことで、「頭の外」に紙という形で具現化されるから、覚えておく必要がなくなる。頭の中がクリアになり、余計な心配事からは解放された状態になる。受験勉強の場合は、今取り組む教科・分野以外を書き出そう。

1-3. 細かく区切ってたくさん休む

疲れ切ってしまう前に、休憩を取って休む。それはサボりではなく、次の集中のための準備時間、社会人として必要なメンテナンスの時間である。

2-1. 「他人の割り込み」が集中力を奪う

自分以外の他者が、集中すべき時間・場所に入らないよう工夫しよう。もちろんスマホも。

2-2. 視界が雑然だと集中できない

机の上は、今必要なものだけがある状態にしよう。数学なら、机の上に英単語帳などは絶対に置かない。

3年生のラストスパートを祈ります。

1年8組副担任 山下 豊作

1年生の皆さんへ、3つのメッセージを送りたいと思います。

**「人は極端になにかをやれば、必ず好きになるという性質をもっています。
好きにならぬのが、むしろ不思議です」**

これは、岡 潔という数学者が「対話：人間の建設」という本の"学問を楽しむ"の章で述べた言葉です。言い方を変えると「何かに夢中になると、それが好きになる」という意味になると思います。

生徒の皆さんにも経験があると思います。受験に向けて頑張っている3年の先輩達が、この状態にあるのではないかと思います。受験指導をしていて後半のほうになると「問題を解くのが楽しくなった」という声を聞くようになります。受験という「勉強に一生懸命取り組んでいる」状態の中から、「考える楽しさ」が生まれてきて、それが好きになるのだと思います。何か一つ打ち込めるものがあるということは、素敵なことだと思います。

「習慣は第二の天性である」

先日、読んだ本の中で印象に残った言葉です。英語の「Habit is second nature」の訳らしいです。natureには、自然という訳もありますが、性質、本性、天性という意味もあります。第一の天性は、生まれながらの性質のことになります。「習慣は第二の天性である」というのは、毎日の習慣は、生まれもつての性質と同じくらい、その人の人生に影響を与えるという意味になると思います。

先日、授業が終わって教室を出ようとしていたら、一人の生徒が日々題をやりたいと語りかけてきました。一日一題を毎日続けたら、来年の今頃には365題解いたことになります。習慣の力恐るべしです。「良い習慣は人生の宝である」という言葉を以前聞いたことがあります、本当にその通りだと思います。

「たゆまざる 歩み恐ろし かたつむり」

これは、長崎の平和祈念像の制作を手がけた彫刻家が詠んだ句です。平和祈念像を制作中のある夜、足下にいたかたつむりが、翌朝には像の上の方にまで達していた。長い不遇の時代が続いて苦しかった作者が、淡々と活動を続けて努力してきた自分に、かたつむりを重ね合わせて詠んだ句と言われています。「継続は力なり」強い意志で取り組みたいものです。

最後に一言、1年生から2年生に上がる節目の今、夢中になれるものを見つけましょう。何か一つでもいいので新しい生活の習慣を作りましょう。そして、決めたら続けていこう。

2019年が明けました。穏やかな新春の幕開けでした。今年が災いのない穏やかな1年であってほしいと思います。

新しい年をどのように迎えたでしょうか?「一年の計は元旦にあり」と言いますが、皆さんは、この正月にどのようなことを考えましたか。どんなことを決意したり願ったりしたでしょうか。新しい年が明けて、一人ひとりが「今年こそこれは」という決意や目標をそれぞれ持ったことでしょう。

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われるように、油断しているとアツという間に今年度も終わってしまいます。高校入試もあり、実際に登校する日はわずかしかなかったかもしれません。充実した学校生活を送ってほしいものです。

さて、2年生のみなさん、いよいよ3年生に向かうラストスパートの時期となりました。これまでずっと努力してきただろうし、これからも努力していきましょうと思います。

努力については、

「努力して結果が出る」⇒「自信がつく」
「努力せずに結果が出る」⇒「傲りが出る」
「努力せずに結果も出ない」⇒「後悔する」
「努力して結果が出ない」⇒「経験が残る」

と、よく言われます。

努力したことは必ず身についてくる。努力しない天才はいないと言われます。

フランスの諺で「卵を割らなければオムレツは作れない」というのがあります。同じ意味で、アメリカでは「ガソリンを入れなければ車は走らない」、イタリアでは「パスタは茹でなければ食べられない」。これらは「行動なくして願いが叶うことはない」ということを言っています。

みなすばらしい才能を持っています。しかし、どんなにすばらしい才能に恵まれても、自ら行動して才能を生かす努力をしなければ、宝の持ち腐れです。

スポーツの指導者が、

伸びる人は、同じことを繰り返す練習を嫌がらない。基本練習をしっかりとやる。指導者の話を素直に聞き入れる。どんなに力や才能があっても我流でやっていたのでは、いつかは壁にぶつかる。基本をしっかりと作り、地力を養って、力がついてくる、伸びてくる。

と、よく口にされます。これはスポーツに限らず、勉学を含むすべてに通ずることです。

「なかなか成果が出ない」ということもあるでしょう。そんな時こそ、基本をしっかりと作り自分の持てる力、能力を最大限に振り絞って行動し続けることです。自ずと道は開かれ、伸びていきます。

最後に、ハリー・ポッターの翻訳者である松岡佑子さんの言葉を紹介します。

「物事の成功の度合いは、かけた時間に比例する。何事も努力し、ぎりぎりまで人事を尽くした時に『魔法』がかかる。」

今年も勉学、部活動において皆さんの心が“熱く”なる年であることを願いたいです。「他から受ける“熱い”感動」も期待しますが、自ら志を高く、夢を持ち、夢に向かって、「自分の心を“熱く”して自らが味わう感動」も期待したいものです。

大学入試も予選終了。いよいよ最終ステージへ！

— 国公立大学前期日程入試まで25日、卒業式まで29日（後期日程試験まで40日） —

大学進学を希望する受験生にとっての第1関門「大学入試センター試験」（1/19(土)20(日)鹿児島大学教育学部受験場）も終了。最終進路判定会とその後の三者面談を経て、受験校も決定し、出願もほぼ終了しているはず。センター試験の受験者約50数万人。国公立大学の定員約12万。非常に厳しい勝負の世界です。12月の三者面談の際に設定した第一志望校に出願できた人、残念ながら志望校を変更しなければならなかった人、それぞれで、気持ちは切り替えられていますか？ 自分の手でもぎ取った得点を「どう生かすか」は君たちの気持ち次第、覚悟次第です。

君たちが今置かれている状況を、池上彰氏になったつもりで、私なりに解説してみます。

複数の競技で実施された予選会で得たアドバンテージを持って、得意種目で決勝に臨む、「変則的な」陸上競技大会をイメージしてみてください。君たちは100Mで決勝に臨もうとしていると仮定します。予選A判定で、残り80M地点からスタートする少数グループ、B判定85M地点、C判定90M地点の大集団、D・E判定の100M地点には更に多くの選手がひしめき合い、スタートの号砲を待っている。さて、ここで考えて欲しいのが次の2点。

- (1) ここにいるのは、当初出場を申告していた選手であって、出場者の顔ぶれを見て、「当初、別競技で決勝に出場予定だった選手が今後、新たにエントリーしてくる可能性がある」
- (2) 「このレースの参加者全員が、程度の差こそあれ、この種目を得意としている」ということ。



- (1) について… 現役にこだわる受験生はセンター試験の結果で志望校を変更する。判定の厳しい大学にあえて変更することはない。結果的に…「A判定」で安心していただけなのに、自分より高得点の受験生が乗っかってきていて、実際にはもっと厳しい判定だったなんてことが起こりうる。最終的な状況は4月まで判明しない。判定はあくまでもセンター試験直後の暫定的なもの。⇒ 安心は禁物。緊張感は維持し続けること。
- (2) について… 受験生は得意教科で2次試験に臨む。たとえセンター試験で多少出遅れたとしても逆転する可能性は大いにある。しかし、逆もありうる。様々な状況を踏まえた上で、進路判定会の中での判断が君たちに伝えてあるはず。判定間の点数差は実はごく僅か。安心はできないし、諦める段階でもない。

センター試験が終わった時点で、アドバンテージを勝ち取った生徒もいれば、ハンデを負った生徒もいる。厳しい言い方ではあるが、これまでの受験勉強における君たちの頑張り・努力は十分評価できる。しかし、勝負事は結果がすべて…これが受験です。納得する・しないは別として、冷静に判断して、現実を受け入れることは重要です。模試業者の判定は「あくまでも1つの目安」であって、絶対的なものではない。今の君たちにとって大切なことは、1日でも早く志望校に合格するための勉強に向けて気持ちを切り替えて、必死に努力すること。自分自身で決めた進路は間違っていないといえるためにも、今まで以上に頑張って合格を勝ち取る。ゴールは目の前。優勝するにこしたことはないが、入賞できるだけでも十分立派。特別授業もあと2週間。どこまで仕上げられるかが勝負の分かれ道。

(進路指導室便りは今回で終わりなので、3月のことにも少しばかり触れておきます。)

前期日程試験が終わったら、後期日程試験に向けて準備をする。国公立大入試には前期日程試験の合格発表から1週間以内に中・後期日程試験という「敗者復活」のチャンスがある。前期日程試験が終わってからわずか2週間後である。ゆっくりしたいという気持ちも分かるが、不測の事態に備えて気持ちを切らさずに「あともう少し」頑張ってみよう。最後まで諦めずに泥臭く粘るのか、簡単に諦めるのか？ きついときにこそその人の真価は問われるもの。

努力は実力を生み、実力は自信を生み、自信は合格をもぎ取る。今やれること・やるべきことに全力を注ごう！